

2020年度 研究センター事業報告書

研究センター名	コリア研究センター
---------	-----------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうだけでわかりやすく記述してください。

はじめに

立命館大学コリア研究センターは、2005年に発足して以来、朝鮮半島に焦点を当てつつ日本と東アジア周辺諸国の相互理解と平和創造に資する研究活動に邁進してきた。2018年度からは、近年激化している東アジアの葛藤と理解のジレンマを乗り越えるために、葛藤・対立のモメントを最小化しながら、交流と相互理解をいっそう促進する道筋を探り、社会的に方向性を示すことのできる政策志向の研究拠点として活発な学術活動を続けている。

1. 学術研究事業**(1) 国際学術交流企画**

2020年度は新型コロナウイルスの感染が拡大する厳しい状況の下、建国大学校統一人文科学研究団（韓国）、中国海洋大学韓国研究所（山東省青島市）、朝鮮大学校朝鮮問題研究センター（東京都小平市）、立命館大学コリア研究センターの4機関の共同開催で、2020年12月5日（土）に「2020 統一人文世界フォーラム：ジェンダーとフェミニズムから見るコリアンの分断、そして統一」をオンライン方式で開催することができた。

(2) RiCKS 月例研究会

RiCKS 月例研究会は前センター発足時からセンターの核心的な事業として取り組んできた企画であり、主として、博士学位取得前後の新進気鋭の若手研究者や関西地域に滞在中の海外研究者に発表を依頼してきた。2020年度は第112回から第116回まですべてオンライン方式で、以下の通り、計5回開催することができた。

- ①第112回 RiCKs 月例研究会（6月29日） 報告者：金泰勲（大阪市立大学大学院創造都市研究科博士後期課程）、報告タイトル「韓国・ソウル市の文来創作村におけるパブリックアートによる都市再生とその影響」
- ②第113回 RiCKs 月例研究会（8月6日） 報告者：張瑛周（立命館大学大学院国際関係研究科博士課程後期課程）、報告タイトル「合意事項から見る米朝非核化交渉とその破綻— 6者会合を中心に」
- ③第114回 RiCKs 月例研究会（10月30日） 報告者：関智焄（立命館大学東アジア平和協力研究センター客員助教）、報告タイトル「韓国政府の慰安婦問題に対する対応—金學順氏の証言から 2015年の日韓合意に至るまで」
- ④第115回 RiCK 月例研究会（11月18日） 報告者：戸塚悦朗（立命館大学コリア研究センター客員協力研究員）、報告タイトル「1905年11月17日付の「日韓協約」は存在しない」
- ⑤第116回 RiCKs 月例研究会（12月22日） 報告者：今里基（立命館大学大学院先端総合学術研究科博士後期課程）、報告タイトル「在韓日本出身者の移動の変遷—『母国留学』から『ライフスタイル移住』まで」

(3) その他の研究会

- ①立命館大学日韓関係研究会（2020年12月5日・立命館大学東アジア平和協力研究センターとの共同主催）、発表者：長澤裕子（東京大学韓国学研究所・特任講師）、テーマ：「文化財をめぐる日韓国交正常化とその課題」
- ②特別研究会（2021年1月25日）主催：立命館大学アジア日本研究所、立命館大学東アジア平和協力研究センター、協力：立命館大学コリア研究センター、発表者：徐勝（又石大学 東アジア平和研究所所長）、テーマ：「東アジアと「帝国化」する日本—平和・人権・連帯の思想—」
- ③立命館大学人文科学研究科（2021年3月12日、3月26日）「グローバル化と公共性」研究会 連続書評研究会「シリーズ：韓国政治の現在を考える」、共催：立命館大学コリア研究センター

2. 若手人材育成

すべての学術研究事業に若手研究者の積極的な参加を促し発表を奨励するとともに、研究基盤を提供した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2021年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
センター長	勝村 誠	政策科学部	教授
運営委員	庵途 由香	文学部	教授
	石川 亮太	経営学部	教授
	金丸 裕一	経済学部	教授
	金 友子	国際関係学部	准教授
	宋 基燦	映像学部	准教授
	高屋 和子	経済学部	教授
	鄭 雅英	経営学部	教授
	中戸 祐夫	国際関係学部	教授
	松本 克美	法務研究科	教授
	文 京洙	国際関係学部	特任教授
	総田 芳憲	立命館アジア太平洋大学	教授
	轟 博志	立命館アジア太平洋大学	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)			
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員		
	補助研究員・リサーチアシスタント		
	大学院生		
	学振特別研究員 (PD・RPD)		
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	宋 隠営	文学部	非常勤講師
	森 類臣	立命館大学	授業担当講師
	宋 基栄	国際関係学部	授業担当講師
	三上 聡太	文学部	授業担当講師
	張 恵英	言語教育センター	非常勤講師
	塚崎 昌之	文学部	授業担当講師
	橋本 妹里	文学部	授業担当講師
	新里 瑠璃子	京都女子大学	非常勤講師
	林 茂澤	—	—

客員協力研究員	徐 潤雅	駐大阪韓国文化院世宗学堂	非常勤講師
	高 賛侑	ライフ映像ワーク	代表
	吉川 絢子	佛教大学歴史学部	非常勤講師
	尹 健次	—	—
	金 東僖	高麗大学	研究教授
	波佐場 清	—	—
	許 燕華	—	—
	沈 熙燦	延世大学(韓国)近代韓国研究所	教授
	戸塚 悦郎	—	弁護士
	梁 仁實	岩手大学人文社会科学部	准教授
	青柳 純一	金起林記念会	共同代表
	申 東洙	京都市立日吉ヶ丘高等学校	非常勤講師
	川瀬 俊治	—	—
	宇都宮 めぐみ	—	—
	金 賢泰	特定非営利活動法人 コリア NGO センター	職員(対外協力担当)
	坂本 悠一	—	—
	関 スラ	大阪外国語専門学校	非常勤研究員
	高 恩美	東亜大学校 石堂学術院	特別研究員
	洪 ジョンウン	駐大阪韓国文化院世宗学堂	非常勤講師
	裴 始美	韓国独立記念館	研究員
	徐 勝	又石大学校	碩座教授
	林 仁澤	Hankyoreh Media company	ジャーナリスト
	許 湖峻	ハンギョレ新聞	記者
	曹 昇美	韓国放送通信大学大学院	チュータ
	生駒 智一	—	—
	HAM YONGKWON	—	—
	李 裕淑	同志社大学	非常勤講師
	李 善英	人間環境学研究科	非常勤講師
	呉 炳守	The Northwest History Foundations: Research Fellow	
	郭 健弘	漢南大学校文科大学史学科	副教授
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	関 智焄		客員研究教員(助教)
研究所・センター構成員 計 53名 (うち学内の若手研究者 計 0名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2021年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	金 友子	日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション—人種、ジェンダー、性的指向：マイノリティに向けられる無意識の差別	共訳	2020年12月	明石書店	デラルド・ウィン・スー著、マイクロアグレッション研究会訳	
2	金 友子	ブリタニカ国際年鑑 2020	共著	2020年5月	ブリタニカ・ジャパン		(担当項目「人間の記録 チョ・ナムジュ」)
3	宋 基燦	集会的創造性—コンヴィヴィア的な人間学のために	共著	2021年2月	世界思想社	松田素二、松浦雄介、野村明宏、阿部利洋、倉島哲、坂部晶子、安井太輔、石原俊、佐々木祐、丸山里美	第9章「ナショナルリズム」からトランスナショナル—朝鮮学校のドラマツルギーから見る集会的創造
4	松本 克美	現代家族法講座・第2巻婚姻と離婚	共著	2020年5月	日本評論社	二宮周平編集代表、犬伏由子編	pp.133-165
5	文 京洙	文在寅時代の韓国「吊い」の民主主義	単著	2020年11月	岩波書店		
6	文 京洙	朝鮮籍とは何か トランスナショナルの視点から	共著	2021年1月	明石書店	編者：李里香	pp.156-172
7	文 京洙	Asia and Japan :Perspectives of History	共著(共編著)	2021年3月	Asia-Japan Research Institute Ritsumeikan University	小杉泰	
8	Kaseda, Yoshinori	Identity, Culture, and Memory in Japanese Foreign Policy (担当章名：Ideational Factors behind the Erosion of Japan's Pacifism)	共著	2021年3月	Peter Lang	Michal Kolmas、Yoichiro Sato (編)	pp.35-62
9	轟 博志	日本に渡った「道里表」と地理思想	単著	2020年8月	開慶古道博物館編、『朝鮮のナビゲーション、道里表』	Cho Yeongdeuk	pp.25-40

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	勝村 誠	日本から見た安重根と東洋平和論	単著	2020年12月	東北亞歴史財団『3・1運動と大韓民国臨時政府Ⅲ 安重根と東洋平和論』	申暎承(編)	pp.235-278	無
2	勝村 誠	【書評】黒川 伊織著『戦争・革命の東アジアと日本のコミュニスト—1920—1970年』壮大なスケールで描く東アジア共産主義運動の叙事詩	単著	2021年3月	『初期社会主義研究』29号		pp.276-280	無
3	勝村 誠	[資料紹介] 安重根の獄中供述記録「聴取書」を中心に	単著	2021年3月	『コリア研究』11号		pp.41-62	無
4	庵途 由香	戦争への強制動員：朝鮮人志願兵が経験したアジア太平洋戦争	単著	2021年2月	湖南史学会、歴史学研究 80		—	有

5	金丸 裕一	丸山傳太郎の中国伝道をめぐって—清末・民国初期	単著	2021年3月	明治学院大学キリスト教研究所紀要 53号		pp.71-121	有
6	김우자 (金友子)	재일조선인 여성에 대한 일상적이고 미묘한 차별	単著	2020年6月	『동방학지』, 191집(04),		pp.87-114	無
7	金 友子	本の紹介『被差別部落女性の主体性形成に関する研究』	単著	2021年3月	『ひょうご部落解放』		pp.96-97	無
8	鄭 雅英	国共内戦期中国東北朝鮮人のナショナルな帰属意識—延边帰属論をめぐって	単著	2020年5月	『北東アジア地域研究』(26),		pp.41-53	有
9	鄭 雅英	書評 権香淑・宮島美花編著『中国朝鮮族の移動と東アジア—元日本留学生の軌跡をたどる』	単著	2020年5月	『北東アジア地域研究』(26),		pp.97-99	無
10	中戸 祐夫	Security Cooperation Between Japan and South Korea on the North Korean Nuclear Threat: Strategic Priorities and Historical Issues	単著	2020年8月	Pacific Focus, Volume35, Issue2		p.307-333	有
11	中戸 祐夫	日韓経済紛争の政治学—経済制裁論からみる日本の対韓輸出管理強化措置	単著	2020年12月	国立政治大学国際関係研究センター、問題と研究、49巻4号		p.77-114	有
12	松本 克美	異質損害の遅発と時効起算点	単著	2020年8月	末川民事法研究会,末川民事法研究,6号		pp.35-49	有
13	松本 克美	PTSDの法的意義—直接の身体侵襲を伴わないPTSDの発症に対する損害賠償請求権の消滅時効期間論も見据えて	単著	2020年8月	立命館法学会,立命館法学,390号		pp.761-791	無
14	松本 克美	ミニシンポジウム・企画趣旨・戦後補償問題は「解決済み」か?—日韓問題を中心に	単著	2020年9月	民主主義科学者協会法律部会,法の科学,51号		pp.20-125	無
15	松本 克美	民法旧724条後段20年期間—除斥期間説の違憲無効論	単著	2020年12月	立命館法学会,立命館法学,391号		pp.1202-1241	無
16	松本 克美	立命館大学法科大学院における女性と人権クリニックについて	単著	2021年1月	臨床法学教育学会,法曹養成と臨床教育,13号		pp.21-27	無
17	松本 克美	夫婦の一方が他方と不貞行為に及んだ第三者に対し離婚に伴う慰謝料を請求することの可否	単著	2021年3月	末川民事法研究会,末川民事法研究,7号		pp.39-46	有
18	文 京洙	ポスト冷戦期の日韓関係—過去清算と反動の相克	単著	2021年2月	在日法律家協会会報『エトランデュテ』(3),		pp.96-121	無
19	文 京洙	4.3과 재일 제주인 재론(再論)·분단과 배제의 논리를 넘어 (4.3と在日済州人再論—分断と排除の論理を	単著	2020年4月	『4.3과 역사 (4.3と歴史)』(20号) 済州四・三研究所		pp.114-121	無

		越えて) ,						
20	文 京洙	コロナ禍1年を振り返る	単著	2021年3月	『在日総合誌・抗路8号』		pp.88-99	無
21	総田 芳憲	冷戦後の日朝関係と日本の安全保障政策	単著	2021年3月	東アジア学会, 東アジア研究, 第28号第3分冊(政治)		pp.73-100	無
22	轟 博志	統一新羅における幹線駅路と行政区画の関係に関する試論	単著	2021年3月	立命館大学コリア研究所, コリア研究, 11号		pp.15-30	有
23	轟 博志	朝鮮王朝時代の国土地理思想における「水経」の位置づけ	単著	2021年3月	立命館大学人文学会, 立命館文学, 672号		pp.163-180	無
24	轟 博志	地籍原図を活用した新羅武珍州(武州)の景観復原	単著	2020年6月	韓国古地図研究学会, 韓国古地図研究, 12巻1号		pp.5-24	有
25	轟 博志	朝鮮時代の国土観と通信使の日本への心象地理	単著	2020年6月	朝鮮通信使学会, 朝鮮通信使研究, 29号		pp.101-124	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	石川 亮太	占領期ゴム産業に関する資料紹介:『ゴム履物特別査察結果報告書』(大阪管区経済調査庁査察部物資課、昭和二十四〔1949〕年十一月二十日)	2020年7月	青丘文庫・朝鮮近現代史研究会 2020年7月例会、神戸学生青年センター	
2	石川 亮太	近代大阪と朝鮮米—関西大学<堂島文書>から分かったこと	2020年11月	第243回産業セミナー、関西大学経済・政治研究所	
3	石川 亮太	東アジアのなかの近代朝鮮:植民地期	2021年3月	多文化福祉研究会、大阪聖和教会	
4	石川 亮太	東アジアのなかの近代朝鮮:開港~植民地化	2021年3月	多文化福祉研究会、大阪聖和教会	
5	金丸 裕一	黒田四郎「南京回想」の探究—戦時日中キリスト教関係史をめぐる実証研究	2020年9月	キリスト教史学会第71回全国大会、山梨英和大学	
6	金丸 裕一	1920年代前半にいたる清水安三の中国観について	2021年3月	アジアキリスト教交流史研究会 2021年度大会、立命館大学びわこ・くさつキャンパス	
7	김우자 (金友子)	제일조선인의 젠더적 차별 경험과 문제설정	2020年12月	2020 통일인문학 세계포럼 “젠더-페미니즘에서 본 코리안의 ‘분단’, 그리고 통일구상, 한국 건국대학교 통일인문학연구원, 일본 리즈메이칸대학 코리아연구원, 일본 조선대학교 조선문제연구원, 중국해양대학 한국연구소	
8	宋 基燦	「韓国軍」出身の朝鮮学校研究者—朝鮮学校の現場で自分の中の分断の記憶と向き合うということ—	2020年10月	シンポジウム「朝鮮戦争と向き合う—分断状況の思想・文化・個人」、ZOOM	
9	宋 基燦	帝国の言語と抵抗の言語の狭間で「ナ(私)」を叫ぶ:朝鮮学校における他言語実践の事例から	2021年2月	国際シンポジウム「地域社会と多文化共生」、ZOOM	
10	中戸 祐夫	北東アジア情勢の変化と南北関係	2020年11月	北東アジア情勢変化と未来志向的な韓日関係、大韓民国大阪総領事館	
11	中戸 祐夫	米国大統領選挙以後の北東アジア情勢—米中関係、南北関係、日韓関係へのインプリケーション	2020年11月	日韓戦略対話、ZOOM	
12	中戸 祐夫	バイデン時代の米中関係と	2020年12月	バイデン時代の東アジア協力—日中韓	

		朝鮮半島非核化一日中韓の協力の可能性		の視角、ZOOM	
13	中戸 祐夫	中戦略競争下での日韓関係の展望 (韓国語)	2021年2月	米中戦略競争と東北アジア秩序 (韓国語)、ZOOM	
14	松本 克美	女性と人権クリニック	2020年6月	臨床法学教育学会,第13回大会	
15	松本 克美	夫婦の一方が他方と不貞行為に及んだ第三者に対し離婚に伴う慰謝料を請求することの可否	2020年6月	末川民事法研究会,定例研究会	
16	松本 克美	コロナ禍で実施した『女性と人権クリニック』	2021年1月	早稲田大学臨床法学研究所,シンポジウム「コロナ禍におけるリーガル・クリニック教育の実践と課題」	
17	松本 克美	児童期性虐待被害の修復と<時の壁>	2021年2月	立命館大学人間科学研究所,創立20周年企画・連続講座「危機と人間科学」・第4回	
18	文 京洙	危機の時代の国家と社会 - 文在寅政権下の韓国を中心に	2021年2月	ドイツ統一30周年記念連続講義 第4回 主催:立命館大学アジア・日本研究所	
19	総田 芳憲	日本の対北朝鮮政策:その特徴と問題点	2021年2月	九州韓国研究者フォーラム研究会、オンライン (Zoom)	
20	轟 博志	新羅時代における駅路の微視的線形	2020年11月	The 10th World Congress of Korean Studies, オンライン	
21	轟 博志	申景濬の水系認識を通じて見た朝鮮の国土地理思想	2020年11月	日本地理学会2020年秋季学術大会, オンライン	
22	轟 博志	統一新羅における幹線駅路と行政区画の関係	2020年11月	18th ASIA PACIFIC CONFERENCE, オンライン	
23	轟 博志	朝鮮時代における水経関連地名の比定について	2020年10月	文化歴史地理学会大会, オンライン	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第112回 Ricks 月例研究会 「韓国・ソウル市の文来創作村におけるパブリックアートによる都市再生とその影響」	ZOOM	2020年6月	30名	
2	第113回 Ricks 月例研究会 「合意事項から見る米朝非核化交渉とその破綻 - 6者会合を中心に」	ZOOM	2020年8月	30名	
3	第114回 Ricks 月例研究会 「韓国政府の慰安婦問題に対する対応 - 金學順氏の証言から2015年の日韓合意に至るまで」	ZOOM	2020年10月	30名	
4	第115回 Rick 月例研究会 「1905年11月17日付の「日韓協約」は存在しない」	ZOOM	2020年11月	30名	
5	第116回 Ricks 月例研究会 「在韓日本出身者の移動の変遷 - 『母国留学』から『ライフスタイル移住』まで」	ZOOM	2020年12月	30名	
6	研究会「日韓会談反対運動に関する日常史研究 (1960~1965年)」	ZOOM	2020年9月	10名	立命館大学東アジア平和協力研究センター
7	日韓関係研究会	ZOOM	2020年12月	15名	立命館大学東アジア平和協力研究センター
8	日韓共同学会議「現代の日韓関係をめぐる課題」	ZOOM	2020年12月	20名	立命館大学東アジア平和協力研究センター
9	呉泰奎総領事講演会「韓日関係と関西」	創思館カンファレンスルーム (ZOOMによる同時中継)	2020年12月	150名	立命館大学東アジア平和協力研究センター
10	連続書評研究会「韓国政治の現在を考える」	存心館・学而館 およびZoom	2021年3月	のべ60名	立命館大学人文科学研究所、立命館大学東アジア平和協力研究センター

